磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵稅 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報 一行 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五八五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 森合英

私たちの歸還列車に田野に佇立して頭を下げてくれた銃後の人たちに申譯なくて泣いた

（宮田重雄）

閼伽井嵐

車中所感二つ

木下雁次

所用があつて平驛から汽車に乘つた、貝原益軒であつたか、舟に乘ると種々の人が一緒に乘つてゐるので世の中を知り自分の修養の材料を得られて非常に都合が好いといふやうな意味の事を述べてゐる。汽車に乘ると、お互に地位も身分も職業も一切わからぬ同志がいろ〳〵の事をいひ合ひ、いろ〳〵の振舞をしてゐる。そしてそこに赤裸々な各個人の修養の結果を判然とぶちまけてゐる。

所で朝早いので朝食に辨當を求めて見ると、石城口腔保健實踐會の「好く嚙め」の宣傳ビラが目についた、之は全く好い思ひつきで効果百パーセントだ。退屈で新聞の廣告の隅から隅まで讀んでゐる人々はそれこそゆつくりと讀んでゐたお辨當を食べながらも「よく嚙め」について語り合つてゐる人も見受けた。政府が全國の驛辨に國家の宣傳事項を一週間位づつ斷續してやつて見たら面白からうと思つた。

歸りの汽車の中で朝鮮水原高農の教授と一緒になつた。丸坊主に詰襟の洋服姿で生徒十二名ばかりを連れて盛岡高農や種馬所の見學に行くのだといふ。

私の學校では生徒に禁酒禁煙坊主頭を實行させてゐる しかしその前に校長の命令一下教職員全部が坊主頭になつて生徒に範を示しました。私も煙草をやるのですがる生徒を連れてゐるので我慢してゐます、

五十歳位の方でぽつ〳〵と靜かに語るこの先生の話をきいて私は近頃になく愉快な氣持で胸が一杯だつた。そして尊いこの先生の話に自づと頭が下つた。

我が國「武」の變遷

山名隆之

神武天皇御東征の功臣は主に我が國樞要の地位に置かるゝこととなつたが、かくして次第に氏族制度の社會は展開し、天皇を御中心に奉つて太陽をめぐる諸群星にも譬へらるゝやうに諸氏族が仕へ奉つた。之を氏族制度の社會といふ。然るに時代の推移と社會の變遷に伴ひ、各氏族の間には分裂抗爭が起り、遂にその中より蘇我氏が頭角を現はし、蝦夷入鹿父子の專横はその極に達し、かくして中大兄皇子は中臣鎌足と謀り給ひ、斷乎誅滅の劍を下されたのである。入鹿はその死に臨み「臣、罪ヲ知ラザリキ」と懺悔したといふが蓋しその生前は罪を知らざるほどの横暴であつてかくの如きていたらくをいま「私武」と稱するのである。いはば「怪シカラヌ武」であつて、支那でいふ「覇道」であり、極言すれば「大逆」である。私武――覇道……大逆……

之が我が國史の發展に一大變化とはいはざる迄も一大衝擊となつたことは吾人の尤もゆるがせにすべからざる事柄である。

茲に時代の弊風は一新され、神武天皇御創業の古に溯つて鞏固にして統一ある國體の顯現は大化改新となつて達成せられたのである廣い意味に於ける公武の發見である。大化新政の精神は先づ、孝德天皇によつて具體化せられ、天皇の御下に國民ひとしく公民として仕へまつる統一國家は出來上り中央集權の制度は確立せられたのである。次いで、齋明天皇を經て天智天皇が即位せられた。天皇は彼の中大兄皇子であらせられる。かくて新政の大綱たる近江令二十二卷は制定せられ、天武天皇及び持統天皇に至つて頒布せられる。その後、文武天皇の御代大寶律令は完成せられた。

然るに大化改新以來大陸文化の攝取は我が國情に種々影響し、個人の力を尊重する風潮を馴致し、個人主義的功利主義的氣風の下に政治面に於て少なからざる變化を伴ひ來つたのである。即ち藤原氏は鎌足が大化改新に大功あつて以來、子孫代々政治の樞機に與り人臣にして空前の官職たる太政大臣となり、攝政に任じ、又關白とせらるゝ樣になるのである。かくて藤原氏は天皇の外戚として政權を掌握し大いに威を振ふやうになつたのである。その道長に及んで榮華權勢はその頂きに達しこの世をばわが世とばかりに振舞つたのである。これ即ち私武といはずして何であらうか。皇室の御恩遇に狎れたるの極かゝる傲慢となつたのである。

選後評短

新妻久滿夫

草野氏の「大いなる國のみ戰」はどちらかと言ふと平凡かも知れぬ然し其平凡の中に捨て難い作者の眞摯な銃後の生活がうかがはれる。幅のある落着いた格調の歌である。津々良生の作は詞に少々の無理があるけれども初々しい明るさ、美しさにこの歌の生命があるのである。加藤氏の歌は寫眞を見て詠んだのか、何うかは分らぬが兎に角引緊つた、力強い表現で虛飾のない所にこの歌のよさがある。數百首の中から右の選をしたが、思つてゐたよりもすばらしい歌に接し得なかつたことが殘念である。『事變に因める』とは別の線の歌で秀歌があつた樣だが後日磐城歌壇に推薦しようと思ふ。

新刊紹介

△聖戰四年 東日社編 定價二十錢

△國民學校と家庭 文政研究會編 定價一圓五十錢 大日本出版社 第一編國民學校が生れるまで、第二編國民學校の概念、第三編生れ變つた教科、第四編教科書の大改革、第五編國民學校の新編制、第六編國民學校ではどんな事を教へるか、第七編家庭の心構へといふ風になつてをり非常に便利にできてゐる

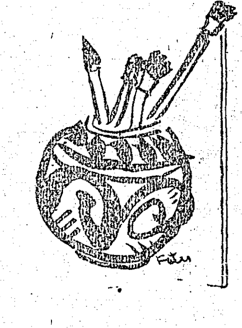
△花 吉屋信子著 定價二圓 新潮社

△これが支那だ 山崎百治著 定價三圓八十錢 栗田書店

△技術の哲學 永田廣志譯 定價二圓八十錢 科學工業社

△東亞聯盟建設綱領 東亞聯盟協會編 定價五十錢 育生社

詩



寂寞

平市　佐藤忠男

ひとりゐの寂しき夜
底冷のする大氣の中に
私は眼を閉ぢて………
忘れて居た人々の許に
仄かな想を走らす
時は唯漠として過ぎゆき
うつろな瞳孔は
何時迄もぢつと動かない………

異人劍法【26】

（禁無斷轉載上演上映）

車谷弘

下山望東畫

初音旅（その八）

伊豆韮山の代官、江川太郎左衛門は、門下を率ゐて、しば〳〵天城の山中に、西洋銃陣の演習を行つた。今日も約三十名ばかりの門下をひきつれて、激しい實地教練の戻りだつた。

天城銃陣の一行には手代の齋藤彌九郎も、横尾平馬も加はつてゐた。一行はいづれも韮山笠にたつゝけをうがつた出立で隊を組んで勇ましく鐵砲を林立させながら、堂々と山嶺を降つて來た。

草原へ出ると、

『休め！』

と陣頭の太郎左衛門が號令した。

一行は思ひ思ひの姿勢で、草の上に小憩したのである。

江川太郎左衛門英龍は、だがしかし、相變らず颯爽とつゝ立つたまゝだつた。

五十搦みの年配だが身の丈人並すぐれて高く、眼光またあくまで鋭かつた。眉をあげてきつと唇を結んで立つた姿は、いかにも冒しがたい威嚴を備へてゐた。江川は地方の一代官とは云ひながらその交友は上下に通じまた天下に遍かつた。水戸齊昭、島津齊彬等の大名を始め當時の先覺者は悉く彼の交際圏に這入つてゐた。彼は高島秋帆について西洋砲術を學んだが、たちまち師を凌駕して一家を成すと、その聲望を傳へ聞いて、旗本及び諸藩士が續々と彼の門下に馳せ參じて來たのである。

太郎左衛門はしばらく草原を睨み渡してゐたが、

『齊藤氏』

と彌九郎を呼んだ。

『はあ』

『このあたり、ひどく草原の草が亂れてゐるが……』

『なるほど』

と彌九郎も見廻して

『こりやア、何かありましたな』

『うん、爭鬪のあとらしい。そこらに何か、落てゐるものでもないか』

すると、向ふで、

『おやつ』

といふ聲がした。

その聲の方をふり返つてみると、キラツと日光を跳返して、草の中に、白刃が光つてゐた。聲を出したのは平馬であつた。平馬は馳けて白刃を拾つて來た。

『血だ、血がついてゐる』

『なにつ』

と彌九郎は手にとつて、

『ふむ懷劍だな』

と仔細に見て、

『こんな物が落ちてをりました』

と太郎左衛門に差出した。

とりあげた太郎左衛門の手元に一同の視線は集中した。

『切先に血がついてゐるな』

『僅な血ですが、まだ生々しいところを見ると、旅の女がならず物にでも……』

『さうかもしれぬ』

『追ませうか』

『何にいたせ、これだけでは分らぬまだ何か落ちてゐぬか』

一行は立上つて、草を分けて探し始めた。

すると、一人が道中の守り袋を拾ひあげて、

『先生、ありましたありました、こんなものが……』

『どれ』

とひらいて、眉をひそめて、

『竹内初音とある、やつぱり女だ』

『えつ』

と平馬は耳を疑つて

『竹内初音と申せば、私いさゝか存じよりの者です』

『なにつ、それは一大事だつ、まだ遠くは行くまい、一同追へ』

『はつ』

一行は俄に銃をかついで立上つた。

快適な筆觸
ウエル萬年筆
金貳圓より數十種
佐々木の
ガラスペン
一本金拾錢より
ガラスペン中の第一級品です
一度の使用が永久の御愛用となる
御用命は
平市學校坂下
代理店 魁文堂
電話三一三番

土木建築
鐵道
船舶仲仕
三崎組
太田勝康
事務所 小名濱町日東前
電話五〇番

耳鼻咽喉科專門
入院設備完備
大和田醫院
平市南町 電話一七〇番

立食
天婦羅
始めました
おでん
もつ燒
一平
小名濱町

口腔外科
齒科一般
レントゲン科
小名濱町中島通
齒科 門馬醫院
院長 門馬忠男

附屬產院 新設（姙產婦入院隨意）
產科
婦人科
木村病院
平市新川町 電一六四

時局の生んだ
新案特許 日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案 メモ板 第二七七九〇四號
野球ベール 第一七九七三號
興亞ノート 第二四七九八號
專賣特許 興亞原紙 第（イ）一七三六〇號 第（ロ）一七三六一號
合資會社 興亞特許商事
同工場 月見町三三

お醬油は
味噌、醬油
たひら正宗
鰹節、食料品
福島縣平市
合名會社 山崎會社
電話 本店 營業部
一〇番 二七〇番

皮膚科
泌尿器科
性病科
平市田町 電六九一
江尻醫院
江尻伊三郎

產科、婦人科
櫻本醫院
平市南町 電話三四番

內科
小兒科
外科
性病科
看護婦及び女中募集
院長全快診療に從事
高久病院
院長 高久忠
副院長 赤羽清
藥局長 佐竹菊雄
平市田町 電五一三

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三光堂 村山書店
平市驛前中央通り

食事
喫茶
酒場
營業時間
○開店…午前十時より
○御飯は夜九時までに御願致します
○閉店…午後十一時限り
サロン
平市銀座街 電話五九二番

ピマーチ
五十錠入 一、一〇〇
百錠入 二、〇〇〇
徳用罎 五、〇〇〇
特約店 平市五丁目
山野邊藥局

外科
內藏整形科
皮膚科
花柳病科
小名濱町仲町
石井醫院
電一八番

口腔外科
齒科一般
小名濱町本町
齒科 鈴木醫院
院長 鈴木正

濕布で名藥
漢方貼り藥
生公華
肋膜、氣管支、關節、神經痛
肺炎、ロイマチス、扁桃腺炎、ぢ疾に
二圓五十錢 四圓 八圓
專賣店 平市五丁目角 山野邊藥局

眼科專門
眼鏡檢定
眼科 重田醫院
平驛前

萬年筆は專門店へ
事務に!!!
進學に!!!
御祝に!!!
(公)2.00 以上
岡萬年筆專門店
平市中央通り

カメラはモギ
現像
燒付
引伸
カメラ 賣買 交換
平市中央通り
茂木カメラ店

祖先崇拜は
家庭繁榮の礎
佛壇、塗位牌、佛金物
是非當店へ……
豐富に取揃へてあります
佛具造花
山光堂
平市馬場通り【電話五五〇番】

ヤマハ・アコーデオン
十八圓より各種
平市公園前
忠角 佐々木商店
電話二三三番

國民擧つて防火塗裝を！
■危險に曝露する木造家屋
■手輕るに出來る防火家屋
■コロイド防火塗料の特長
專賣特許 太陽無機コロイド販賣店
大量使用の御注文並團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
カタログ進呈
山田文一商店
平市仲町通り 電話二六二番地

後任市長をめぐる 微妙な動き

結局郡市から新人起用か

青治市長の辭表提出に伴ふ市會最初の協議會は十三日夜公會堂の日本間に開かれるがこの協議會を前にして後任市長問題は微妙な動きを見せ、青治市長再選論は殆ど影を斷ち此際多少の摩擦を生ずるも新人を起用して新興平市としての將來の發展を策すべきであるとの意見が擡頭して來てゐる、輸入候補者は人口三萬五千の小さな町の平市にどれだけの閲歷手腕を有する輸入候補を求め得るか平市に大した緣もゆかりもない相當な人物で平市長の椅子に食指を動かす人物は、待遇關係もあり恐らくは絶無ではなからうかといはれてをり結局平市、或は廣く石城郡出身の人物中から適當な人物を物色して郷土のため一肌脫いで貰ふ所に落着くのではなからうかと觀測されてゐる、もし市會が一致して推薦するに於ては郡市出身者中の相當有力者も此の際郷土のため一身の利害を捨てて乘り出すではなからうかといはれてゐる

小名濱・玉川合併

兩町村十三日諮問案答申

新發足愈々近づく

小名濱、玉川合併問題は縣當局並に地方出身縣會議員の熱心な說得に反對してゐた部落民も諒解するもの多く、議論は十二分に盡され結論に達した爲、過般縣から小名濱、玉川兩町村へ諮問案が發せられた、小名濱町は十三日町會を招集することに決定、一方玉川村でも十日午後一時村會議員の協議會を開き十三日に同樣諮問案附議する村會を招集することに決定、小名濱、玉川合併案は既定通り實現する運びとなつた

小名濱諮問案

一、小名濱町境界變更に關する件

二、町境界變更に伴ふ財產處分に關する件

諮問答申の件

お菓子屋統制

地區工組愈結成さる

全縣下を一地區として統制されてゐた福島縣菓子工業組合は不詳事件の後を衝いて解散されることになり、新たに地區毎の菓子工業組合が生れる事になつた、從つて平菓子工業組合も近く設立される事になるが設立要項は

一、縣菓子工業組合聯合會を組織せしめ地方には地區菓子工業組合を設立せしめる

一、地區は警察署管轄區を單位として指導取締を一斡せしめる

一、資格は、地區內に於て昭和十五年二月以前（砂糖統制令施行以前）から引續き掛物干菓子、打物燒物、米菓、煎餅、おこし、油菓、甘納豆、煎豆、砂糖淸、和生菓子、洋生菓子、パン類、餅菓子等を製造して居る物で、

菓子工業組合の資格を限定された事は時代色の反映である

これで工業組合と商業組合の分野が明瞭となり製造販賣業者は工業組合に受賣販賣業者は商業組合菓子部に包含され統制が一段と强化される事である

二歳駒セリ市

中寺・桶賣成績優良

三坂村中寺二才駒雛市場は八日開場したが出場頭數五十五、總取引二萬七百一圓、價格は平均三百七十六圓三十八錢、最高牝馬六百五十一圓、牡五百五十一圓、最低牝馬二百八十圓、牡馬二百圓で一方九、十の兩日開場した川前村桶賣市場は百八十二頭出場、總取引七萬七千百四十七圓、平均、四百二十三圓八十八錢、最高牝馬八百八十八圓、牡馬六百五十圓、最低牝馬百八十圓、牡馬百七十圓の優秀な成績であつた

漁業融資

組合側で割合決定

小名濱漁業協同組合では九日の役員會に於て今秋の乘出し資金として一般組合員に融通するべき金拾萬圓を信用組合より借入れ、揚繰漁業へは一統に五千圓底曳船には一千圓を限度として希望者に特融する事になつたが尙ほ信用組合では漁業組合連帶保證の下に揚繰船一統に對し一萬五千圓の金融の道も拓けてゐる

我等の市長

有力者の意見

市民に告ぐ

本社は過般發表した如く全市民の視聽を集めてゐる後任平市長問題に關する市內有力者の意見を聽く往復を發送した處、答信書殺到、市長問題は如何に重要視されてゐるかゞ窺知される、答信は何れも市民の輿論を代表するものと思ふから逐次掲載して輿論の向ふ處を示すことにする

本社問ひ

1、市長には如何なる人物を望まれる

2、平市の有力候補について

3、現市長の再選について

4、輸入候補に就て

答信

一、市町村長は一國ならば元首の地位なり敏腕の人よりも德望の人たるべし、又一期二期にて更迭せしむべからず、その人生涯の力を傾倒せしむべきなり、從つて自治体とその長とは運命を一にすべきものである

二、山崎與三郎氏を遮二無二推戴すべきである

三、青治氏の再選可なり、但しこの場合は山崎氏を名譽助役に起用する事を條件とす

四、平市の格式、發展の程度、財政の嵩より推して輸入候補の必要なし、若し計劃の立つ敏腕の人あらば助役に起用すべし數名の助役を擁するも可なり

八幡小路　柴田　德二

1、平市百年の計を立て子孫の爲めに死する覺悟ある人物

2、山崎與三郎氏是非平市の爲めに立候補あつて然るべし

3、老齡誠にお氣の毒と考ふ老後の休養然るべしと思ふ

鎌田町　白土　德彌

1、理想を有する少壯有爲の士過去に於て惡德なき人を望む

2、關內正　氏の如き人物最適任と思考す

3、閑雲野鶴を友とせられ過去功積を永久ならしめられんことを望む

4、地方自治体に於て人なき場合はともかく對立解消の方便として輸入候補は不可なり

松本　一郎

1、事務的手腕などは論ずるに足らず左顧右べんすることなく所信に向つて邁進し平市を眞に愛する人物

2、目下の處心當りなし

3、新進の適任者なくば再選亦止むを得ず

4、絶体に不可

平市字仲間町　荻　粂藏

1、私利利慾に走らぬ眞に平市の幸福を念ふ人を望みます

2、有力候補として數人を數へられますが今の處發表は御遠慮致します

3　御事情が許すなら四圍の情勢から見て此際再選を希望す

4、止む無くば輸入必ずしも否とするものに非ざるもなるべく市民であり度いと思ひます

平市五丁目　井上貞次郎

1、時流に阿ゆせず毅然たる意志の所有者にして公平無私の人を望みます

2、此三項に就ては充分なる認識を有せず隨て意見發表の基礎無し自治機關たる市會議員多數の推擧に期待す

平　細菌檢査所　皆川　篤平

小名濱常會　小名濱町常會は定例日毎月十一日の處本月は十三日午後一時に變更した

なまの良い
マルミ石

石炭の大闇

笹島仲介人公判へ

內郷村白水石炭採掘販賣業合資會社上田不動澤炭礦々業所長、前科二犯笹島鐵雄（四〇）は十五年三月以來七月に至る間前記上田不動澤炭礦主上田正二より石炭一キロにつき三圓の闇金をつけて四千四百二十七キロ買受け、更にこれを一圓乃至五十錢の闇値をつけて東京市日本橋區江戶橋一丁目東炭礦株式會社外三十三名に對して販賣し、一萬二千余圓の不當利得を占め警視廳からの手配で平檢事局の取調べを受けてゐたが取調べを終へ起訴され十五日公判に附さるる平檢事局の闇取引で公判に附されるのは今回が始めてゞある

平放送局の新設

國內体制に備へ實現か

國際情勢の緊迫と國內体制の整備にラジオの重要性が叫ばれ一戶一台運動は全國的に行なはれてゐるが、仙台HKでもこれに對處、過般平市郡山、福島兩放送局長を派遣し市內各方面のラジオに關する意見を聽取する處あつたが、福島、郡山兩放送局は電力の弱い關係から濱通り、會津方部は完全にキッチ出來ず概して不評判で、縣內の宣傳放送も徹底せぬ憾みある爲、仙台HKは地方の要望を容れて平及若松の兩市へ放送局を設置、縣內のラジオ網を整備することに決定準備を進めてゐる平放送局が設置されると福島、郡山兩放送局の放送が中繼されるので完全に聽取出來、市の宣傳事項や地方色のある娛樂などが自由に折込まれるので一戶一台の增加運動も全般的普及するものと期されてゐる

礦石で聽ける

川村平局長談

別項、平放送局設置問題について川村郵便局長を訪れると喜んで語る

局の方へはまだ何とも情報ありませんが早くからの計畫でありますし、今度のラジオ普及運動は國內の時局對處策に成つて居り、全國何處でも鑛石で聽取出來るやう、電波の關係を考慮してゐるやうですから愈々積極的に乘出したのでせう、これが實現すると平放送局附近は高價な機械を設ける必要も無くなり、現在二千余の聽取戶數も全戶に普及することになると思ひます、放送局の設置場所などについては具体化すると市當局及平郵便局へも交渉があると思ひます、一日も早く實現することが望ましい

紙芝居で常會

十三日公會堂で指導

縣並に大政翼贊會縣支部では紙芝居に依り部落常會及び隣組常會の振興を圖る目的の下に十三日午前十時から平市公會堂に日本敎育紙芝居協會柄澤敬次郎氏を招聘『敎育紙芝居の理論と實際指導』題下の紙芝居講習會を開催する、參集者は平市並に濱三郡下町村吏員、國民學校職員、部落會町內會長、常會委員等である

四倉青壯年

近く機構を整備

四倉町青壯年隊の結成式は去る七日午前十時國民學校々庭で擧行、目下副隊長以下各分隊長班長等の人選中で近く機構を整備發表する

不身持の兄殺害

內郷村宮の澤の亂鬪

昨十日午後一時半頃內郷村大字宮の澤字町田下駄職大島義夫（二八）は自宅へ來合せた兄信夫（三四）と口論の末喧嘩し義夫は商賣用の鉈をふるつて兄信夫に斬りつけ、顏面、頸部、肩等數ケ所へ瀕死の重傷を負はせ、駈けつけた附近民が島田醫院へかつぎ込んで應急手當てを加へたが同三時半頃死亡した、急報に接し平署から中澤司法主任、柴田部長が現狀へ急行加害者義夫は間も無く捕はれた、一方平檢事局から中村檢事、三澤豫審判事も駈けつけ被害者の死体を解剖に附した

原因取調べ中であるが加害者の義雄は眞面目な青年で附近の評判が良く、殺された兄の信夫は身持がおさまらず、この日も弟の處へ無心に來て拒絕され、口論となり昂憤した義夫が手近にあつた鉈を持出し斬りつけたもので、居合せた長兄熊太郎（四二）も義夫に助力したとの說あり取調べが進められてゐる

牛の今昔

〔26〕

天保錢背負つた 月給五圓の校長

鍋田三重翁の事ども

寺小舍の話（下）

水竹翁の師は鍋田昌山と言つて水戶藩の藤田東湖と並び稱された漢學者で、藩の學者であり江戶詰家老を勤め地史の研究家だつた。水竹翁は藩から選ばれて江戶にのぼりこの昌山先生の膝下で親しくその敎へを受けたもので東湖は盛んに昌山に大藩水戶に仕へる樣にと奬めたが昌山は二君に仕へずと遂に應じなかつたと言ふ。その子三復氏（三重翁の父）は平藩の武術師範で物頭即ち足輕の頭だつた居宅は今の平刑務所前八幡小路に住んで居たが平城が落城して落士達が退軍の際、眞先きに火をかけられた。三重翁は丁度七、八才だつたが一時仙台に難を避け毎日戰爭ごつこをして居たものださうだ　戊辰戰後は武士が土地をもらつてドン／＼百姓に變つた、所謂歸農時代で三重氏一家も一時は慣れぬ手に鍬を握り百姓仕事をやつた

どうも話が橫道にそれたが、それた序いでに三重翁の略歷だが同氏は明治十一年に本縣師範學校を卒業、伊達郡石戶村石田小學校に奉職したのをはじめに諸所の小學校に奉職、石城郡御厩小學校長を最後に敎育界から退いた。

この校長の時の月給が金五圓で、それも天保錢で渡されるので月給日と言ふと五圓の月給をウンサ／＼と背負つて家に歸つたと言ふ今から考へると正に噓の樣な話で三重翁も〃いや月給日と言ふと實にごせつぱら燒けた〃と語つて居た思へば昔はさすがに金の重みは大したものだつた譯だ、其處で三重翁は月給を背負つて歩く樣な眞似はして居れんと水戶の文官試驗に應じ校長先生から土地調査の仕事を始めたが、勿論青年三重氏の働き場所である筈がない、更に營林署に入り東京大林區が出來てから當時の農商務省に勤め大正三年歸郷現在に至つたものだと言ふ。

さてこれだけで學校の話とは隨分人を喰つた心臓ものだが記者自身の事情からこのまゝで擱筆する余儀ないことになつたので讀者諸氏の御寬容をお願する

昭和十四年八月記す

（S・S生）

鰹不漁で

貯氷異變

小名濱港本夏の鰹水揚げは稀れに見る不振で昨今の盛漁シーズンに當つて鰹の姿が珍らしい位で、これが爲めに氷の消費にも異變を來し平製氷の如きは製產能力を減じ貯氷も一ケ月も遲れて開始したが何時貯氷が役立つかと既に悲鳴を擧げて居り丸和共販所でも第一年の出荷機構も完備して約五十名の幹部以下の從業員が腕臍のばしての待機の姿はいさゝか調子拔けの態である

四倉体力檢査

四倉町昭和十六年の体力檢査は二十一日より二十四日まで五日間毎日午後一時より五時まで四倉國民學校內で執行するが受檢資格者は滿十五歲以上十九歲までの男子である

物故者慰靈祭

遞信報國隊平局の催し

遞信報國强調週間は七日から行なはれ十三日で終るが、平郵便局では第六日目の明十二日『協同偕和の日』に當つてゐるので土曜日でも午後三時三十分まで局內の執務向上につとめ、午後四時から全員參列九品寺に於て在職中に物故した局員の慰靈祭を行ふことに決定

物故者

牛崎久吉、松崎籌、澁井みさを、志賀宏、酒井利一郎、太田かめよ、根本富一、加澤行之進、鈴木方男、鵜沼芳子、高橋清二郎、菅野幸藏、橋本義一、渡邊了

農村慰問映畫

豪雨のため延期

磐城文協、農建同盟共同主催の『農村慰問映畫會』第一日目の今十一日川前で擧行する豫定で同村も張切つてゐたが朝來からの豪雨で地域が廣い關係上參會者を集めることと困難であり、又と得難い折角の催しを無意にするのを遺憾とし、文協側と村當局が協議十四日に延期することになつた

炭車に觸れ

坑夫即死

內郷村磐城炭礦綴坑採炭夫村山相吾（三三）は十日午前五時二十分頃坑內で作業中、炭車に接觸、頭蓋骨を紛粹して同午後二時四十分死亡した

木炭へ石

惡炭燒へお灸

四倉町字新町農木炭製造業阿部國彰（四六）は今年三月永戶村木炭改良組合に對し一俵につき三百目乃至四百目の小石を詰めて十七俵賣り國家總動員法違反で略式罰金五十圓に處せられた

住居侵入

十二日公判へ

赤井村大字赤井八宮炭礦坑內係佐藤兼松（二八）に係る住居侵入傷害暴力事件の公判は十二日平區で

潮流惡く

漁況不順

六月閏關係か

四倉新町鈴木幸次郎氏經營の大敷網は四月下旬投網以來昨十日までの收獲高は四萬五千余圓に達してゐるが本年の潮流關係は最近に無い不順調でゐとり、大敗のみに限らず揚操網小鯛釣の傳馬船にも大きな打擊である漁夫連の談に依れば鰹船を中心としての近海漁業關係は舊閏六月に入らなければ本潮流に入らぬと言つてゐる

体力檢査

未屆へ注意喚起

平市では國民体力法に依る國民体力被監理者屆を去る五月十日で〆切つたが市內には尙ほ未屆のもの相當あり市敎務課へポツ／＼屆出甚だしきに致つては被監理者を間違へて他人を書き入れて來るものある始末なので市では未屆者に對し一刻も早く申出るやう注意してゐるが國民体力法違反者は相當處罰されるこ

慰問袋　四ッ倉町四ッ倉郵便局交換手一同は慰問袋二個を十一日平市役所へ寄託した

四倉の行倒

今十一日午後一時廿分頃四倉町新町朝日新聞販賣店前國道に年齡四十六、七歲位の男が行倒れたので四倉署では早速附近、額賀醫院へ擔ぎ込み手當てを加へ身元搜査中である

賭博一掃

罰金決る

郡內三警察署管內一齊に行なはれた賭博狩で檢擧されたもの、內十日略式で罰金に處せられたもの次の如し

△罰金百圓湯本町志賀仙之助（六〇）同磐崎村齊藏文治（五六）△同百圓湯本町佐藤芳太郎（四六）△同五十圓磐崎村關根千代松（三六）同湯本町生田目重松（三六）△同五十圓湯本町小林カツ（四三）同鈴木子之助（三〇）同松本イナジ（四七）同綠川昌雄（三二）△五十圓湯本町佐藤長四郎（三七）△同五十圓齊藤丑松（三三）同佐藤實（三〇）同坂垣伊佐男（二九）同玉置一（三二）同森戶信（三九）

常習犯

十六日公判開廷

常習賭博事件は十六日公判を開く

小名濱町佐川德次郎（三二）同町佐川久壽（三七）同上町刈込吉松（三三）勿來町大字窪田小松金直（五六）上遠野村大津藤次郎（五六）小名濱町小野一（三二）小名濱町古港小野弘（二七）同海產商野崎忠治（四〇）

十七日公判

平市南町六六芹澤正忠（四一）東京市荒川區日暮里松本辰雄（三七）赤井日曹朴田一郎（四〇）の常習賭博事件は十七日公判

罰金四百圓

四倉の闇へ斷

四倉町濱町古物商齊藤誠（三八）は自動車用のガソリンと砂糖の闇で略式罰金四百圓

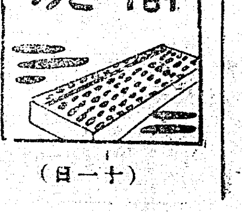
電車で轢死

內郷村の少年

內郷村大字宮馬目林藏次男安治さん（十二）は十日朝五時半頃全村金坂地內で磐炭軌道を橫切らんとして電車に轢かれて即死した

商況

（十一日）



野菜	
人參	五八
キウリ	六五
ナス	七〇
京菜	二五
玉葱	三三
玉菜	二八
ナダ豆	八〇
鮮魚	
鰹	一九、三
メジ	四七、五

天氣豫報

今晚　南の風後北西の風小降ですが降りつゞきです

明日　南の風降たりやんだりのお天氣です

「貯蓄は無盡で」
磐城無盡
三仟圓

社告

福島民報社平支局の事務一切は本社に於いて取扱ふべきに付編輯營業關係を通じ御用件の方は當社へ御照會下さい

昭和十六年七月

磐城每日新聞社

別莊向宅地讓渡

場所　植田町岩間海岸
面積　五百坪
建屋　茅葺平屋（五十坪）
庭園　古木、庭石含む

鮫川が太平洋に注ぐ處、筋向に鴨の湯鑛泉あり、空氣淸淨、風光明眉にして避暑避寒に適した絶好の別莊向き住宅地

格安にて讓渡す　姓名在社

公告

當社ハ昭和十六年七月二日臨時株主總會ノ決議ニ依リ解散致候ニ付當社ニ對シ債權ヲ有スル者ハ昭和十六年七月八日ヨリ仝年九月八日迄ニ債權ノ申出相成度候若シ右期間中ニ債權ノ申出無之トキハ淸算ヨリ除外セラルベク候

右公告候也

昭和十六年七月八日

平市四丁目拾九番地（星野方）

株式會社平魚市場

右淸算人　野崎滿藏
皆川新一
松本一郎
星野庸治